

「農場の自然生態園における植生管理」団体に当社が決定、活動を開始！

－当社施工の明治大学農学部黒川農場での生物多様性取り組み－

戸田建設(株) (社長：井上舜三) は、今年6月に開場した「明治大学農学部黒川農場」(神奈川県川崎市麻生区) における「農場の自然生態園における植生管理」団体として、明治大学農学部倉本教授のご指導のもと、植生管理活動※1を開始しました。



写真1 植生管理活動に参加したメンバー



写真2 自然生態園で指導する倉本教授

1. 自然生態園の植生管理について

当社施工の明治大学農学部黒川新農場をフィールドにしたもので、9月に大学ホームページ上で公募された「農場内の自然生態園における植生管理」に当社が選ばれ、第1回の植生管理活動を10月5日に行いました。

自然生態園は、新農場の前12.8ヘクタールのうち、約4分の1程度を占める里山です。雑木林、草地、小川、ビオトープなどがあり、自然と人の手の力のつり合いで成り立つ環境やその仕組みを研究するための場所です。

ここでの植生管理活動は、在来植生の維持・育成、外来植物の排除といった活動を通じて、里山保全に必要な生物多様性のあり方を見出すことを目的としています。明治大学農学部倉本教授のご指導のもと、当社のECO・リーダープロジェクト※2、本社・横浜支店の植生管理関係者計10名が植生管理活動を行いました。今後も毎月、植生管理活動を実施していく予定です。

※1 植生管理活動：植生(植物の広がり)を維持する活動のこと。在来植生の維持・育成、外来植物の抑制などがある。

※2 ECO・リーダーPJ：社内の女性社員を中心とした本社、支店単位で形成される全社エコ活動推進プロジェクト。



写真3 外来種のオオバタクサが繁殖



写真4 オオバタクサを刈り取った状態

2. 生物多様性への取り組み

農場がある川崎市麻生区黒川地区は農業振興地域に指定されており、斜面の雑木林の緑と谷底の水田、畑、小川が織り成す景色が美しい自然豊かな里山です。生物多様性の豊かな里山環境の創造的再生の手法を新しい農場で確立するために、倉本教授の指導のもと、環境に応じた生物の保全とその研究を2014年3月まで、当社と明治大学で共同研究を行っています。